

### 3) [比喩] ほかのものにたとえる

◆比喩とは、難しいことを私たちがよく知っている日常的なことに置き換えて(=たとえて)、わかりやすく説明することである。

本文に、それまでの内容と全く関係のない言葉が突然出てきたら、比喩を使っているかもしれない。何を何にたとえているかしっかりつかもう。

#### ★例題6 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

スポーツをやる目的やかかわり方は種々多様である。オリンピックで金メダルを争うような熾烈なスポーツもあれば、勝敗はともかくみんなで楽しく遊ばよというスポーツもある。健康のために、あるいはレクリエーションのためにというスポーツのある一方で、スポーツが仕事というプロスポーツも存在している。しかしやり方や目的は違え、どれもスポーツであることには変りはない。(中略)

レベルは違ってもスポーツはスポーツなのであり、そのレベルから少しでもうまくなり、強くなるろうとするやり方は基本的には違いのないものである。頂点に通じる長い山道のどこを歩いているかの違いであり、けわしさや空気の薄さは上にいくほどつらくはなるが、歩いて進むことや歩き方には変りはない。そしてどこで立ち止まっても山の空気は新鮮で、景色は美しい。その人その人によって、どの高さで楽しんでもいいものだし、そうして誰にでももう少し高く登ってみたいと思わせるのがスポーツというものなのである。

(浅見俊雄『スポーツの科学』東京大学出版会)

【問い】この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 登山は、どんな人でも楽しむことができ、誰もがより高いところを目指そうとする。
- 2 登山というスポーツは、上にいくほど苦しくなるが、どこにも楽しさはある。
- 3 スポーツとは、どのレベルでも楽しさがあり、少しでも上達したいと思うものである。
- 4 スポーツにはさまざまなレベルがあるが、楽しくないものはスポーツではない。



### 全体をつかもう

#### 1) キーワードからテーマを推測する

スポーツ、山道、けわしさ、高さ → テーマは、スポーツの話？ 山登りの話？

#### 2) 「比喩」に注目する

##### 第1段落：

オリンピックを目指すスポーツも、健康や楽しみのためのスポーツも同じスポーツである。

##### 第2段落：

スポーツ全般の話から、山道の話になる。

山登りはスポーツの比喩。山登りの話を通じて、スポーツについて何を言いたいか考える。山登りについて書かれている文章をスポーツに置き換えてみる。

〔山登り〕	〔スポーツ〕
頂点に通じる長い山道	→ 上達の過程
けわしさ 空気の薄さ	→ 練習の厳しさ、つらさ
山の空気は新鮮 景色は美しい	→ 楽しさ
高さ	→ レベル
高く登ってみたい	→ 上手になりたい

#### 3) 全体をまとめる

上達のための練習の厳しさ、つらさ(=けわしさ、空気の薄さ)はそれぞれ違う。しかし、どのレベルでも楽しめるし(=山の空気は新鮮)、上達しよう(=高く登ろう)と思わせるのがスポーツである。

### 選択肢と比べよう

- 1: 登山は比喩で、この文章のテーマではない。
- 2: 登山は比喩で、この文章のテーマではない。
- 3: 正解
- 4: 楽しくないものはスポーツではないとは書かれていない。

## 練習10 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

雨が降れば傘をさす。傘がなければ風呂敷でもかぶる。それもなければぬれるしか仕方がない。

雨の日に傘がないのは、天気のとくに油断して、その用意をしなかったからだ。雨にぬれて、はじめて傘の必要を知る。そして次の雨にはぬれないように考える。雨があがれば、何をおいても傘の用意をしようと決意する。これもやはり、人生の一つの教えである。

わかりきったことながら、世の中にはそして人生には、晴れの日もあれば雨の日もある。好調の時もあれば、不調の時もある。にもかかわらず、晴れの日が少しつづくと、つい雨の日を忘れがちになる。好調の波がつづくと、ついゆきすぎる。油断する。これも、人間の一つの姿であろうか。

(松下幸之助『道をひらく』PHP 研究所)

## 問い この文章の内容として最も適切なものはどれか。

- 1 雨の日に傘を持っていないのは、つい油断してしまうからである。
- 2 人生がうまく行っている時は、悪い時に備える心を忘れがちだ。
- 3 人は、雨があがると、いつもつい傘をどこかに忘れて来てしまう。
- 4 人生が好調な時は晴れの日が続くので、傘を準備しておく必要はない。

## 練習11 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

足が速い人は、生まれつき速い。遅い人は、生まれながらにして遅い。特に短距離走はポテンシャルの勝負――。

そう思っている方が多いでしょうし、私もつい数年前まではそう思っていました。そして、ある面ではやはりその通りなのです。生まれ持った骨格や腱、筋肉などの質によって、足の速さはかなりの部分まで決まってしまう。

車と同じで、エンジンの性能を超えた走りはできません。

ただし、多くの人は、性能を限界まで引き出していないのです。また、エンジンの性能がアップしなくても、タイヤを履き替えたり、運転テクニックを上達させたりと、スピードをアップさせる方法はほかにいくらでもあるのです。

(為末大『日本人の足を速くする』新潮社)

## 問い この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 車の速さは、エンジンの性能によって決まる。
- 2 足が速いか遅いかは、生まれながらにして決まっている。
- 3 車のスピードをアップさせる方法は、いろいろある。
- 4 足が遅いと思っている人も、工夫すればもっと速くなれる。

## 練習12 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

なんかの本で読んだ話。ある山の麓(注1)で、おじいさんと孫が、山鳩(注2)の雛(注3)を育てていた。その山の反対側に、別のおじいさんと孫がいて、こちらは鷹(注4)の雛を育てていた。それぞれの雛が成長して、飛べるようになったんで、ある日、空に放してやった。そしたら、鷹が山鳩を食べてしまった。山のこっち側では、山鳩が喰われたって泣いた。向こう側では、鷹がはじめて餌を獲たって喜んだ。ひとつの現象なのに、山のこっちと向こうでは、まるっきり正反対のことが起きたってことになる。

妙な話だけど、人生の喜びや悲しみは、根本的にそういうものだ。この世で起きることには、本来、何の色も着いていない。

そこに、喜びだの悲しみだのの色を着けるのは人間だ。

(北野武『全思考』幻冬舎)

(注1) 麓：山の下の部分

(注2) 山鳩：山に住む鳥

(注3) 雛：鳥の子供

(注4) 鷹：肉食の鳥で、山鳩より大きい

## 問い この文章の内容として最も適切なものはどれか。

- 1 住んでいるところが変われば、同じ現象でも違って見えるものだ。
- 2 人生にうれしいことも悲しいこともあるのは、しかたがないことだ。
- 3 いくら人が喜んだり悲しんだりしても、起きたことはどうすることもできない。
- 4 世の中で起きる物事は、立場によって見え方や意味が変わってくる。



#### 4) [疑問提示文] 疑問文を使って話題を提示する

◆**疑問提示文**とは、これから何について述べるかを、**疑問文**を使って示している文である。疑問の**答え**を探そう。

種類：疑問詞疑問文(「なぜ・どうして・いつ・どこで・どのようにして…」がつく。)

Yes-No 疑問文(疑問詞はない。文末が「～だろうか。」「～(の)か。」)

#### ☆ 例題7 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

リーダーたるもの、必要であればメンバーを怒ることからも逃げてはならない。締めるところを締めてこそチームの**結束**も強まるものだ。

ではリーダーは、メンバーの何を怒ればいいのか。

いちばん**最悪**なのは、相手の**人格**を否定する怒り方だ。「だからお前はダメなんだ！」などと怒鳴っても、ことは何ひとつ**進展**しない。怒るのはあくまでも、仕事への**取り組み**についてであるべきだ。

とはいえ仕事のミス自体を「何をしているんだ！」とただ叱咤(注1)するのもいただけない。リーダーならばメンバーのミスについては、なぜミスが起きたのかをまず**分析**したい(この点は後述する)。

リーダーが本気で怒るべきは、メンバーの仕事に対する「**意識**」や「**姿勢**」に甘さが見えたときだ。

たとえば、ある人が同じミスを何度も繰り返したときや、周りに協力を仰がねばならないのに本人が**消極的**なとき。口だけで行動がともなっていないときや下を育てる立場にしながら、**後輩**の力不足を嘆いているだけのとき(そこを伸ばすのが自分の**使命**だとわかっていない)。(中略)

もちろん怒れば自分自身も気分はよくないし、相手もいったんは完全にしょげてしまう。だが、あなたが手を抜かずに本気で怒れば、相手もあなたの想いを汲み取って必ず**奮起**して(注2)くれる。

(藤巻幸夫『フジマキ流 アツイチームをつくる チームリーダーの教科書』インデックス・コミュニケーションズ)

(注1) 叱咤：大声で叱る

(注2) 奮起する：やる気を出す

**問い** この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 リーダーはメンバーの**取り組んでいる**仕事における**ミス**だけを取り上げて怒るべきだ。
- 2 リーダーはメンバーの仕事に対する**取り組み**に**真剣さ**が足りないことを怒るべきだ。
- 3 リーダーはメンバーの、**消極的**とか、**そそっかしい**等の**性格**について怒るべきだ。
- 4 リーダーは、メンバーが怒られた後がっかりして立ち直れなくなることを怒るべきだ。

#### ぜんたい 全体をつかもう

##### 1) キーワードからテーマを推測する

リーダー、メンバー、怒る、「意識」、「姿勢」

→ テーマは、リーダーがメンバーを怒ること?

##### 2) 「疑問提示文」に注目する

「疑問提示文」とその答えを探す。

疑問提示文：第2段落「リーダーは、メンバーの何を怒ればいいのか。」

答え：

第3段落：相手の <b>人格</b>	→	<b>最悪</b>
第4段落：仕事の <b>ミス</b> 自体	→	いただけない(=よくない)
第5段落：仕事に対する <b>意識・姿勢</b> に甘さ	→	<b>本気で怒る</b> べき

##### 3) 全体をまとめる

リーダーは、メンバーの仕事に対する**意識・姿勢**に甘さが見えたとき、**本気で怒る**べきだ。

#### せんたくし 選択肢と比べよう

- 1：リーダーなら「なぜ**ミス**が起きたのかをまず**分析**したい」と書かれている。
- 2：**正解**(仕事に対する**取り組み**に**真剣さ**が足りない=意識や姿勢が甘い)
- 3：「**人格**を否定する怒り方」は「**最悪**」だと書かれている。
- 4：立ち直れなくなることを怒るべきとは書かれていない。本気で怒れば「必ず**奮起**」すると書かれている。

## 【疑問提示文】

練習 13 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

今の日本人の欲望は留まるどころを知らません。常に新しい物を欲しが。美味しい物ばかりに目移りする。身の丈(注1)以上の生活を求め続けている。そして子供には過度の期待をかけ、能力以上の成果を望む。果たしてそこに本当の幸福があるのでしょうか。

ほんのつい最近まで、日本人は身の丈に合った慎ましい(注2)生活を送っていました。少なくとも私が幼少の頃はそうでした。背伸びをすることなく、不満を口にすることなく、慎ましい暮らしの幸せを感じていました。

かつてのような貧しい暮らしが良いというわけではありません。ただ、身の丈に合わない生活には、きっと大きな落とし穴がある。そんな気がするのです。

(山田洋次「わたしの幸福論」『PHP No.679』PHP 研究所)

(注1)身の丈：身長

(注2)慎ましい：ぜいたくでない

問い この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 昔は貧しかったが、今は欲しい物が何でも手に入り、現代の日本人は幸福である。
- 2 少し前まで日本人は貧しい暮らしをしていて、あまり幸福とは言えなかった。
- 3 今の日本人は背伸びして良い生活を求めているが、それでは幸福になれないだろう。
- 4 筆者が子供の頃は、自分の生活に満足しながら生活していて、幸福だった。

## 【疑問提示文】

練習 14 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

みなさんは、そもそも何のために文章を書くのでしょうか。

もし、私自身が同じ質問を受けたら、「自分を表現し、他者と関わりながら生きていくため」と答えます。学校の教科書や参考書をいくら読んでも、それだけでは他者との関わりは生まれてきません。知識として知ることと他者と関わるということは、質的に全く別次元のことだからです。知識をいくら積み重ねても、他者と関わることは永遠にできないでしょう。

理解し感動したことや一生懸命に考えたことを、拙くても(注1)いいから、試行錯誤(注2)しながらでもいいから、誰かにきちんと「伝える」練習をしてみましょう。それは、きっと社会に働きかけ、他の人々と共に生きていく練習にもなるでしょう。「書く」という行為は、静かに自分の内面を見つめることでありながら、同時に社会に向けて行動する第一歩にもなり得るのです。

(原和久『創作カトレーニング』岩波書店)

(注1)拙い：下手だ

(注2)試行錯誤：いろいろやってみて失敗しながら目的に近づいていくこと

問い この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 書くときには「何のために文章を書くのか」をよく考えることが大切だ。
- 2 書くことは、誰かにきちんと「伝え」、社会に向けて行動することにつながる。
- 3 教科書や参考書で勉強しても、知識が増えるだけで、書くことは上手にならない。
- 4 書くことによって人は成長し、自分の内面を見つめられるようになる。

【疑問提示文】

練習 15 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

日本で生活している留学生の多くが、「日本人は家族の関係が薄い」という感想を抱くようだ。ひとり暮らしをしている大学生があまり家族と連絡をとらないことや、老人ホームなどの施設で暮らすお年寄りが多いことなどから、そう感じるらしい。「経済が発展した結果、昔は強かった家族の人間関係が、だんだん薄く、冷たくなったのだ」という意見もよく聞く。本当にそうなのだろうか。

ある全国調査によると、「あなたにとって何がいちばん大切ですか」という質問に対して「家族」と答えた人の割合は、1978年が23%、1988年が33%、1998年が40%、2008年が46%だった。家族がいちばん大切だと言う考えの人が30年で倍になったことがわかる。

一方、「職場の同僚とのつきあい」「隣近所の人とのつきあい」「親せき」について、「相談したり助けあったりできる関係」にあることが望ましいかどうかを聞いたところ、すべての項目において、「望ましい」と答える人の割合は減少傾向にあった。

問い この文章の内容として最も適切なものはどれか。

- 1 職場や地域、親せきとのつきあいは薄れているが、家族関係を重視する人の割合が高まっている。
- 2 経済発展をしても、家族関係や、職場や地域、親せきとの関係の強さはあまり変わっていない。
- 3 年とともに、職場や地域、親せきとの関係は強まりつつあるが、家族を大切に思う人の割合は増えていない。
- 4 家族関係だけでなく、職場や地域、親せき関係を重視する人の割合もすべて低下してきている。

【疑問提示文】

練習 16 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

目の前の相手が悲しんでいるとき、その自分の感情を思い出していただきたい。同情とか、共感とか、力になってやりたいといった気持ちが起こるだろう。また、人に親切にしたときや贈り物をしたときなど、相手がうれしそうな表情やしぐさをして、喜んでいるとわかれば、自分もうれしくなるだろう。このようにして相手の感情がわかり、それに対して共感する気持ちが生まれれば、それは相手に対する好感情につながる。

だが、喜んでいるのか悲しんでいるのか、さっぱりわからない人の場合はどうだろうか。その人にどう接していいかわからず、共感する気持ちもわからない。なんとなく敬遠(注1)したくなるのではないだろうか。(中略)

とくに若い世代は、感情を表にあらわさない人に対して、「わからない人」という評価を下し敬遠しがちだ。そのため、人と話すときに自分の感情をうまくあらわせない少年少女は、クラスメートたちから仲間はずれにされやすく、ときにはいじめられっ子になったりもする。感情をうまく表にあらわせない人は、対人関係が悪くなりやすいのである。

(本明寛『なぜ電車の席は両端が人気なのか——行動の心理学』双葉社)

(注1) 敬遠：嫌がって避けること

問い この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 相手の感情がわからない人は、仲間はずれにされたりいじめられたりする。
- 2 自分の感情を相手に対して上手に出していけば、良い人間関係を作りやすい。
- 3 目の前にいる人が自分の気持ちに共感してくれないと、その人との関係が悪くなる。
- 4 感情を表に出さない人より、表に出す人のほうが人間関係で問題が起きやすい。